

## 景気動向指数研究会 議事概要

1. 日時：平成 13 年 12 月 21 日（金）14：00～16：00
2. 場所：内閣府第 4 合同庁舎府議室（545 特別会議室）
3. 出席者：（委員）  
森口親司座長、森 一夫座長代理、勝又寿良委員、刈屋武昭委員、嶋中雄二委員、  
美添泰人委員、吉川 洋委員  
（事務局）  
浜田経済社会総合研究所長、牛嶋経済社会総合研究所次長、中村総括政策研究官、  
妹尾景気統計部長
4. 主要議題： (1)景気動向指数の改訂について  
(2)第 12 循環の景気基準日付の確定について  
(3)第 13 循環の山の暫定設定について
5. 議事内容：  
開会  
浜田経済社会総合研究所長から挨拶  
景気動向指数の改訂について等

事務局から説明に続き、以下のような委員からの意見があった。

景気動向指数の改訂について

- （森）先行指数について、経済分野ごとの採用数が変わったことは重要である。投資が 1 系列減り、消費、金融が 1 系列ずつ増えたことは適切な改訂と考える。消費は経済の重要な分野であり、金融は最近とみに経済への影響を強めている。
- （美添）消費者態度指数の採用について、四半期（全国）に比べて月次（東京）はサンプル数が減る。首都圏を対象とした同様の意識調査に比べても、本調査はサンプル数がやや少ないと思う。安定性については確認されているようだが、今後も安定性について計測していくことが重要。
- （刈屋）新車新規登録・届出台数が削除になるのは適切だと考える。これにより、ある特定の産業がボラタイルな動きをすることで全体がかく乱されることが防げる。また百貨店も同様の問題を抱えている。
- （座長）百貨店販売は一致指数として採用が継続されているが、最近の百貨店破綻などの影響はどうみるべきか。指標の連続性は保たれているのか調べるべき。
- （森）百貨店が消費の代表指標とは言えない面は確かにあるが、循環的な消費指標を探すのは難しい問題であり、百貨店の採用はやむをえないのではないか。

(勝又) 経済企画庁時代に景気ウォッチャー調査を始めたが、今の段階ではデータの蓄積が不十分であるが、今後の採用指標としては検討の価値があるのではないかと思う。

(吉川) 金融面の先行指標として、マネーサプライを株価に代えたのはある意味当然。マネーサプライは過去 7、8 年適当でないと思っていたので大変結構。例外的な時期を別にすれば、株価には先行性があると考えるのが常識。

(嶋中) 株価は水準で取ると発散する危険があり、今回の改訂では前年比を取ったので循環的な動きが出たのだと思う。同様に、マネーサプライも水準では循環性を示さないが、前年比を取ることによって循環的な動きをしてきた。金融面で長短金利差と株価を採用するのは適切な措置。ただし今回削除されるマネーサプライについても、マネタリーベースなら循環変動を観測できないかなど、今後も継続して検討する必要がある。

(嶋中) 今の景気動向指数は月次系列に四半期系列が混在しており、この四半期系列の扱いは難しい問題だと思う。かといって営業利益のような重要な指標を落とすわけにもいかないが、月次で代替できるような指標がないか探す努力は続けるべき。

(吉川) マネーサプライを水準でみるか前年比でみるかはあるが、重要な指標であることに間違いはない。今回は一度退場となるが、今回株価が採用系列として復活したように、また採用することもあろう。ここ 7、8 年のマネーの指標はいろいろ問題があり、とりあえず削除し、今後の検討に委ねたい。教科書的にはマネーサプライは政策変数だが、現在は政策変数としてマネーサプライが動いている面の他に、金融不安との対応でハイパワードマネーが動いている側面がある。また、M2 + CD は民間貸出の影響も受けており、100%が政策変数というわけではなく、内生変数として働いている面もある。いずれにせよ、一度削除するのは適切な措置と考える。

(美添) 営業利益の季節調整については、法人季報のデータは標本入れ替えや脱落の問題などに留意する必要がある。

#### 景気基準日付の設定について

(嶋中) 暫定の景気基準日付の確定、今回の山の暫定設定について、ヒストリカル DI から出てきた結果であり、日付については異議はない。ただし、暫定の山の日付が変動したのは、季節調整値が変わったというよりも営業利益の山の位置が変わったという方がわかりやすい。

(嶋中) 第 12 循環の拡張期間が 41 か月から 43 か月に伸びたことで岩戸景気を抜くことになる。この点について実感と合わないという議論がもし出てきた場合に十分な配慮をもった検討が必要。

(刈屋) 景気の山谷についてプライ・ボツシャン(BB)法で事後的にみていくルールと、CI等でみていく方法があるかと思う。今後はDIの+ - だけでなくCIの数値情報もみていくことが必要だと思う。

(森) CIの一致指数にBB法を適用すると12月が山になる。量感も含めるとそういうことになるが、景気の山谷は従来通り変化方向だけで決めるもの。CIを重視している他国でもCIだけでは判断せずにGDPなども入れて総合的に判断している国が多い。

(嶋中) 景気基準日付についてもっと早く設定するために暫定速報の公表を検討すべき。

#### 景気基準日付の設定

- ・ 景気動向指数研究会として、第12循環について平成9年5月を景気の山、平成11年1月に景気の山を設定することとした。また、第13循環について平成12年10月に景気の山を暫定的に設定することとした。これを受け、内閣府としては第12循環について平成9年5月を景気の山、平成11年1月に景気の山を設定することとした。また、第13循環について平成12年10月に景気の山を暫定的に設定することとした。

閉会